

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	15人	算数	15人	理科	15人
第5学年	国語	20人	算数	20人	理科	20人

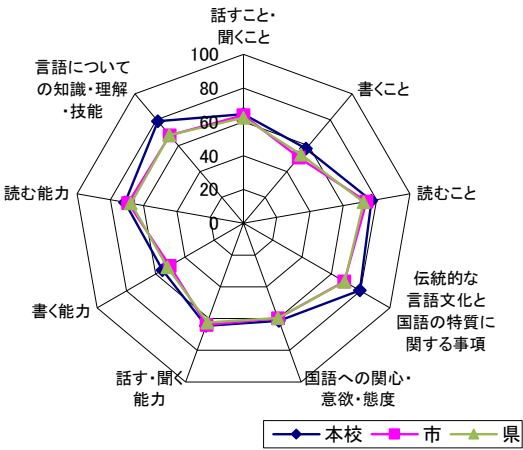
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	64.6	64.0	62.5
	書くこと	57.7	50.9	53.1
	読むこと	76.9	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.5	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	61.5	59.9	59.7
	話す・聞く能力	64.6	64.0	62.5
	書く能力	55.4	50.4	52.0
	読む能力	71.2	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	78.8	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

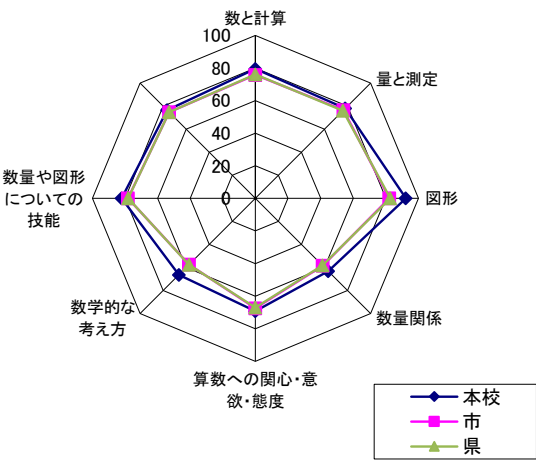
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は64.6%で、市の平均と同程度だった。 ○「話し方の工夫に注意して聞き取ること」の設問については、正答率が市の平均を大きく上回った。 ●「話題に沿った意見と理由を考えて話すこと」の設問では、正答率が市の平均をやや下回った。 ●「インタビューの質問のねらいを理解すること」の設問では、市の平均を下回った。	目的に応じて質問をしたり、相手の意見に関連付けて自分の意見を述べたりすることに課題があると思われる。国語の学習に限らず、各教科や特別活動の際に、相手の意見に関連付けた発言をすることを働きかけていく。また、関連性の高い発言をつなげていくことで、話し合い活動が充実することを実感させ、よりよい話し合い活動の仕方を身に付けられるようにする。
書くこと	平均正答率は57.7%で、市の平均を上回った。 ○「指定された長さで文章を書くこと」「2段落構成で文章を書くこと」の設問では、ともに市の正答率を大きく上回った。 ●「書くこととするものの中心を明確にして文章をかくこと」の設問では、市の正答率を大きく下回った。 ●無回答が多く、時間配分について課題が見られた。	字数や段落数などの比較的簡単な条件に合わせて文章を書くことについては、おおむね定着していると思われる。しかし、提示された条件が複雑になってきたときに課題が見られる。授業の振り返りやまとめの際に、文字数制限や段落構成の条件、必須で書く単語や内容の設定を行い、与えられた条件に合致させながら書く経験を積ませていく。
読むこと	平均正答率は76.9%で、市の平均をやや上回った。 ○「目的や必要に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ること」「文章の内容を的確に読み取ること」の設問では、正答率が市の平均を大きく上回った。 ●「登場人物の気持ちを読み取ること」の設問では、正答率が市の平均を下回った。	文学作品を読む機会を多く設け、じっくりと叙述を読む活動を取り入れていきたい。また、文章に書かれていることから登場人物の性格や気持ちを推測する経験を積ませたい。そのために読書指導に力を入れ、読み聞かせの後には「人物の考え方や性格をみんなで考える」などの活動も取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は79.5%で、市の平均を大きく上回った。 ○漢字の読み書きについての設問では、正答率が市の平均を上回った。 ●「文の構成(主語と述語)」について理解している」の設問では、市の平均をやや下回った。 ●「ローマ字のつづりを理解している」の設問では、市の平均を大きく下回った。	漢字の読み書きは定着しているので、ステップアップシートなどを活用しながら、今後も継続して定着に努めていく。 「ローマ字の表記」「主語・述語の類別」については、つまづきのある児童に対して個別指導の機会を設けるなど、基礎基本を再度徹底させていく。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.5	75.8	76.1
	量と測定	78.0	76.5	76.0
	図形	92.3	82.1	82.7
	数量関係	63.1	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	69.2	67.4	67.0
	数学的な考え方	66.4	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	82.1	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	76.7	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

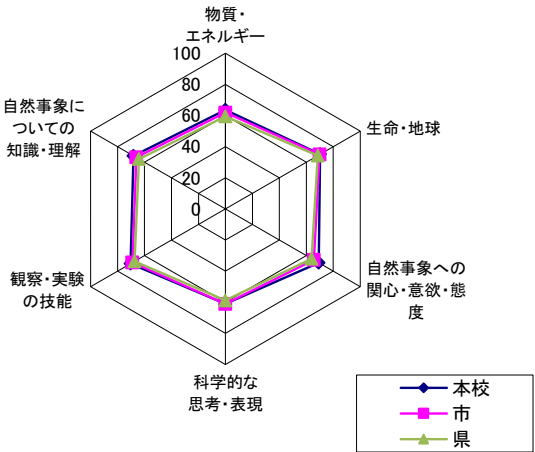
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は79.5%で、市の平均をやや上回った。 ○全21問中、正答率が100%の設問が7問あり、3年生で学んだ「かけ算のきまり」や「わり算」などの基礎的な事項はおおむね身に付いていると言える。 ●「整数－小数第1位の計算」「数の相対的な大きさについて理解している」「分子が1の分数が何個で1になるかを理解している」の設問では、市の平均を大きく下回った。	計算についての基礎的な知識について再度確認し、確実に身に付けさせるとともに、計算プリントやドリルで定着を図っていく。 また、家庭学習や朝の学習の時間を活用し、より計算技能を高められるように、適切な課題を取り組ませていく。 学習内容の定着に遅れが見られる児童には、少人数指導を活用したり、丁寧な個別指導を行ったりすることで、基礎となる既習事項の復習の機会を設けるようにする。
量と測定	平均正答率は78.0%で、市の平均をやや上回った。 ○「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める」設問では、正答率が市の平均を大きく上回り、正しく理解できていた。 ●「1分＝60秒の関係を理解している」「道のりの意味を理解している」「身近にあるものの重さの単位」の設問では、正答率が市の平均を下回った。	学習における基礎的な事項が十分定着するよう、授業において用語の提示や習得方法を工夫していく。 時間や距離などの量的感覚を身に付けさせるために、身の回りの物の重さや長さをはかる活動を多く取り入れ、体験を通して実感を伴った理解を促していく。
図形	平均正答率は92.3%で、市の平均を大きく上回った。 ○全ての設問で、正答率が市の平均と同程度またはを上回った。 ○「正しい円の直径を選ぶ」設問では、正答率が100%で、全員が正しく理解できていた。	図形の単元では、具体物を用いた少人数指導や作図の練習を繰り返し行ったことが効果的だった。今後も継続していきたい。 一方で、図形における基礎的な事項の作図では、未定着である児童がわずかに見られたため、個別指導で対応し定着を図る。
数量関係	平均正答率は63.1%で、市の平均をやや上回った。 ○「□を使って、減法の式に表す」「棒グラフの目盛の大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフを書くことができない理由を説明することができる」の設問では、正答率が市の平均を大きく上回った。 ●「棒グラフを正しく読む」設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。	棒グラフを見て、1目盛の大きさや量を正しく読み取るだけでなく、様々な見方から棒グラフを読み取る力を付けるためには、棒グラフを見て、気付いたことや分かったことを話し合う活動を多く取り入れる必要がある。 さらに、算数科だけでなく、社会科や理科の学習内容との関連付けを図り、表やグラフを読み取る力を養っていく。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.6	61.9	59.4
	生命・地球	70.2	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	69.2	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	61.0	61.0	58.8
	観察・実験の技能	70.4	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	68.2	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、63.6%で、市の平均をやや上回った。 ○「光の進み方の理解」「実験結果からわかる風のはたらきの説明」の設問では、正答率が100%と市の平均を大きく上回った。 ○「はね返した光を重ねたところの明るさ」「日光を集めて火をおこすことができる道具を推測する」「回路についての理解」の設問では、正答率が市の平均を大きく上回っており、おおむね理解できていた。 ●「日光を集めた部分の大きさや明るさや温度との関係」「実験の結果からわかるゼムクリップの磁性について」の設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。 ●「種類の異なる同体積の物体を、情報を読み取って推測する」「豆電球が付かなかった理由を推測する」設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。情報や結果から物事を推測することが苦手であると考えられる。	どの単元においても実験前の予想、実験後の結果からの考察の時間を十分に確保し、自分の言葉で説明したり、グループやペアで話し合ったりする学習を大切にしていける。 「実験結果からわかること」や「情報を読み取って推測する」活動を理科の学びの過程に位置付け、「適用」「分析」「構想」「改善」などを意識した「考えること」を経験させていける。 学習内容が未定着の児童に対しては、該当する内容について個別に復習できる機会を設ける。
生命・地球	平均正答率は70.2%で、市の平均をやや上回った。 ○「植物の育つ順序」「モンシロチョウがたまごから成虫になるまでのおよその期間」の設問では、正答率が市の平均を大きく上回り、定着が図られているといえる。 ○「温度計を正しく読むこと」「地面の温度の変わり方をもとに、時刻を推測すること」の設問では、正答率が市の平均を大きく上回った。 ●「植物の体のつくり」の設問では、正答率が76.9%で、市の平均を大きく下回った。	昆虫や植物の観察の際は、実物をよく見る活動を行うだけでなく、図書資料等を有効活用し、調べたことを自分の言葉でまとめたり、説明したりする活動を多く取り入れていける。 観察に使う器具の正しい使い方や事象の見方など、複数の単元で繰り返し指導し、理解できるようにしていくことで、「実際に使える知識」になるようにしていく。 記述の問題が苦手な児童へは、表現の仕方の例を示し、それをもとに表現する機会を繰り返し行ない、習熟を図っていく。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」「家でのきまりや約束を守っている」の項目において、肯定的回答をした児童が100%であった。今後も、道徳の時間や縦割り班活動、様々な学校行事や普段の生活を通して、思いやりの心やきまりを大切にすることを育成していく。

○「授業を集中して受けている」「勉強をしていて、『不思議だな』『なぜだろう』と覚えることがある」の項目において、肯定的回答をした児童が100%であった。また、「新聞を読んでいる」の項目において、市の平均を大きく上回った。

○「理科の学習は好きですか」「理科の授業の内容はよく分かりますか」「理科は将来のために大切だと思いますか」のすべての項目において、肯定的回答が100%であった。

○理科以外の教科においても肯定的回答が市の平均を上回っており、児童が意欲的に学習に取り組み、課題意識をもって授業に臨んでいることがうかがえる。

○「1か月に、何さくらい本を読みますか」の項目において、100%の児童が1冊以上読んでいると回答し、さらに40%近くの児童が11冊以上読んでいると回答した。今後も、司書教諭や図書ボランティアと連携しながら読書活動の充実に努める。

○「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている」の項目において、肯定的回答をした児童が100%であった。今後も児童の取り組みにおけるよい所をたくさん見つけ称賛して意欲を高めるとともに、丁寧なノート指導を心掛けていく。

○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の項目からは、自分の考えを文章化することに対する抵抗感が低いことが分かる。今後も各教科の中で書く活動を取り入れ、よりの確に表現する力を身に付けさせていく。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」の項目において、肯定的回答が100%で、なおかつ市の平均を大きく上回った。家庭でのコミュニケーションがしっかりとられていることがうかがえる。

●「家で、学校の授業の予習をしている」の項目では市の平均を大きく下回った。今後は、自主学習として予習をする選択肢もあることを周知するとともに、具体的な予習のやり方についても指導していく。

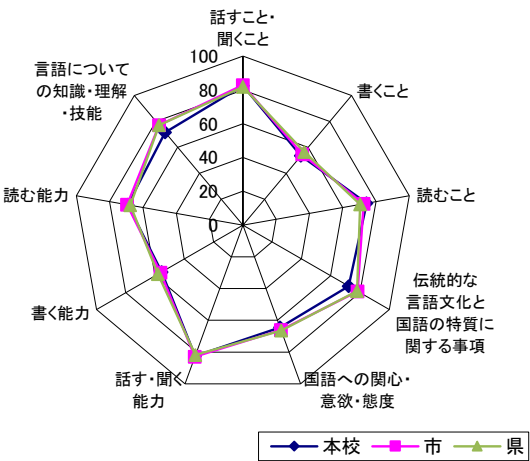
●「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」「毎日の生活が充実している」の項目において、肯定的回答が市の平均を下回った。学校生活において、児童一人一人の自己肯定感を高め、自立の手助けができるよう配慮していく。

●「人と話すことは楽しい」の項目では肯定的回答をした児童が市の平均を大きく下回った。今後はグループ活動やペア学習など、日常的に対話する機会を意図的に増やすとともに、楽しい雰囲気では話が弾むよう支援していく。

宇都宮市立城山西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.5	82.9	81.8
	書くこと	53.5	54.8	56.5
	読むこと	74.4	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.4	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	64.5	66.0	66.4
	話す・聞く能力	82.5	82.9	81.8
	書く能力	55.5	56.3	57.9
	読む能力	69.1	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	71.6	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

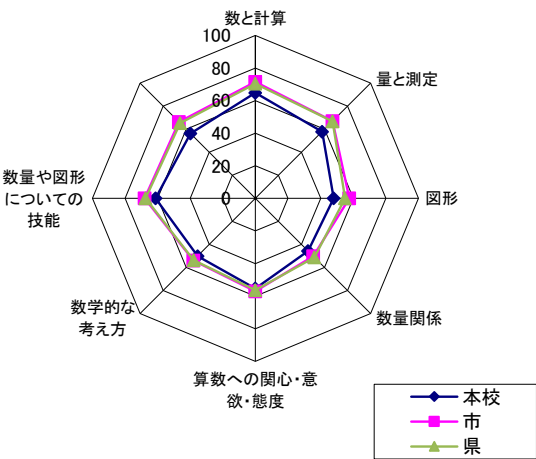
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は82.5%で、市の平均と同程度だった。 ○「話し方の工夫に注意して聞き取ることができる。」の設問では、正答率が市の平均を上回った。 ●「話の中心に気を付けて聞き取ることができる」の設問では、正答率が市の平均を下回った。	授業だけでなく、学校生活全般において「聴く」ことの指導を継続的に行い、児童の聴く態度の育成を図っていく。また、授業の話合い活動やまとめの時間に、聞き取った事柄の主旨を、適切な言葉で要約して表す経験を積ませたり、朝の会のスピーチで、聞き手が質問する時間を設けたりして、聞き取った内容を活用する活動を取り入れていく。
書くこと	平均正答率は53.5%で、市の平均と同程度だった。 ○「書くこうとすることの中心を明確にして文章を書くことができる」「自分の考えが明確になるように、具体的に文章を書くことができる」の設問では、正答率が市の平均を上回った。 ●「意見をもとにポスターの文をかくことができる」「情報を適切に読み取り、ポスターの文を書くことができる」の設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。 市の平均と比較して無答率が低く、設問に対して意欲的に取り組んだと考えられる。しかし、一定の条件を与えられ、それに沿って書かなければならない場合、条件が増えていくにしたがって正答率が低くなる傾向が見られた。	宿題や授業での取り組み内容の成果から、書くことに対する苦手意識は低いようである。そのため、宿題の日記や、単元末の新聞づくりやノートの振り返り活動を継続していく。さらに、授業の振り返りやまとめの際に、文字数制限や段落構成の条件、必須で書く単語や内容の設定を行い、与えられた条件に合致させながら書く経験を積ませていく。
読むこと	平均正答率は74.4%で、市の平均をやや上回った。 ○「場面の様子を読み取る」「登場人物の気持ちを読み取る」設問では、正答率が市の平均を上回った。 ●「文章の内容を的確に読み取る」設問では、正答率が市の平均を下回った。選択式の問題において、文章中の言葉を使わない表現になると、問題文と内容が一致しているか判断に迷う傾向が見られた。	様々な分野の文章を読む機会を多く設け、文学的文章に書かれている登場人物の性格を推測する経験を積ませたり、説明的文章を要約したり、段落に小見出しをつけたりする学習活動を多く取り入れていく。また、いろいろな言語表現に触れる機会をできるだけ多くもたせるために、読書指導に力を入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は72.4%で、市の平均を下回った。 ○「漢字を書く」設問では、どの文字の正答率も市の平均と同程度または上回っていた。 ●「漢字を読む」設問では、正答率が市の平均を大変大きく下回った文字があった。 ●「漢字辞典の使い方を理解している」の設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。	漢字の書き取りについては比較的定着しているが、日常生活においてあまり使用しない文字の読み方が定着していないようである。そのため、ステップアップシートなどを活用したり、宿題や自主学習の課題にしたりしながら、今後も継続して定着に努めていく。漢字辞典の使い方については児童の理解の度合いに大きな差がある。つまり、きのある児童に対しては個別指導の機会を設けるなど、基礎基本を再度徹底させていく。

宇都宮市立城山西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.8	71.5	70.4
	量と測定	57.9	67.0	66.9
	図形	48.0	57.6	55.0
	数量関係	45.6	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	55.3	57.0	56.3
	数学的な考え方	50.2	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	61.3	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	56.4	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

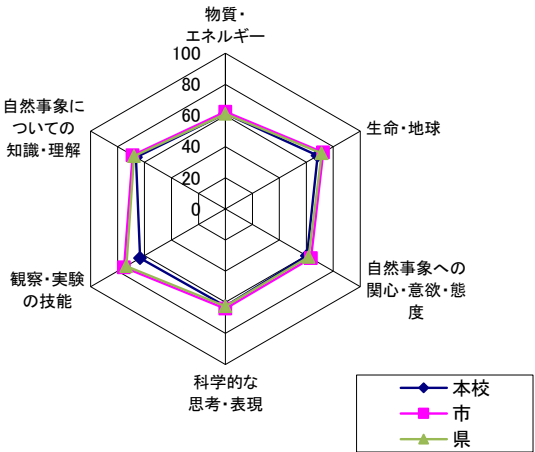
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が64.8%で、市の平均を下回った。 ○「小数第二位÷整数＝小数第二位(商が純小数)」の設問では正答率が市の平均を上回った。 ●「3けた÷2けた＝2けた(余りあり)」の設問では正答率が市の平均を大きく下回った。 ●「十億の位の数字は何か」の設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。	計算ミスを少なくするため、今後も授業で計算ドリルを活用するとともに、朝の学習や家庭学習で繰り返し練習し、定着を図っていく。また、基礎的問題の正答率が低い傾向にあるので、基礎的事項がしっかりと定着しているか再度確認する機会を設ける。またケアレスミスを防ぐために、問題文を最後までしっかりと読むよう、国語などの他教科とも関連付けながら指導していく。
量と測定	平均正答率が57.9%で、市の平均を下回った。 ○「長方形の面積を求める」設問では、正答率が市の平均を上回った。 ●「分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読む」「180°より大きい角の大きさを求める式を選ぶ」設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。 ●「5等分した長方形の1つの辺の長さを求める」設問では正答率が市の平均を大きく下回った。	分度器の目盛りの読み方や、大きな角を計算で求める問題など角に関する基本問題をもう一度復習させる機会を設け、定着を図る。単純な長方形の面積を求める問題だけではなく、多様な図形の面積に関する問題を解き、学んだことを活用して問題を解く経験を積み重ねていく。
図形	平均正答率が48.0%で、市の平均を下回った。 ○「直方体のある辺に垂直な辺」の設問では、正答率が市の平均をやや上回った。 ●「四角形の対角線の性質を理解しているか」の設問では、正答率が市の平均を下回った。 ●「ひし形を作図する」設問では正答率が市の平均を大きく下回った。	いろいろな図形の性質を理解し、その性質を活用して説明する力を身に付けさせるために、授業のはじめにその時間の課題を解決するための見通しをもたせていく。さらに、課題解決にあたっては、ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れ、自分の考えをまとめ、文章化しやすくしていく。 それぞれの図形の性質や基礎的事項の定着が不十分である児童に対しては、既習事項の復習の機会を設ける。また、作図を苦手とする児童に対しては、少人数指導や個別指導の機会を設け、コンパスやものさしの使い方など基礎的技能の定着を十分に図っていく。
数量関係	平均正答率が45.6%と市の平均をやや下回った。 ○「二次元表の読み方を理解し、示されたものが表のどこに該当するか」の設問では、正答率が市の平均を大きく上回った。 ●「伴って変わる二つの数量の一方の値からもう一方の値を求める」「伴って変わる二つの数量の関係を式に表す」設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。	伴って変わる二つの数量の関係性に気付くことができるよう、算数の設問のみならず、生活の中の様々な場面において「伴って変わる数量」に触れる機会を多くもたせる。また推測する力を付けられるよう、社会科や理科などの他教科の学習内容との関連付けを図り、表やグラフを読み取る力を養っていく。

宇都宮市立城山西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.2	62.4	61.1
	生命・地球	68.4	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.5	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	62.5	64.1	62.6
	観察・実験の技能	63.2	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	66.4	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は61.2%で市の平均をやや下回った。 ○「浮き輪やビーチボールに空気を入れすぎないほうが良い理由」の設問では、正答率が市の平均を上回った。 ○「水が氷になるときの体積変化」についての設問では、正答率が68.4%で市の平均を大きく上回っており、定着が図られていた。 ●「グラフから水の状態を読み取る」設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。 ●「空気のあたたまり方」の設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。	どの単位においても、実験や観察の技能について繰り返し指導し、定着を図っていく。基本的な観察の技能や器具の扱い方については、その都度確認し、定着を図る。 実験の際には、調べたいことを明確にし、そのためにはどのような実験を行えばそれが明確になるのかを考えさせていく。また、記録する際には、数値だけでなくそのときの状態や気付きなども書き留めておき、考察に生かすようはたらきかけていく。実験・観察を通して、様々な視点から見つめることの重要性に気付かせ、科学的な事物現象のつながりに目が向けられるようにする。 水のすがたについての学習では、予想と結果を比較した上で考察が行えるようにする。水の変化の様子について、絵や図を交えながら変化の過程をまとめることで、視覚的にも変化の様子を的確に捉えさせる。
生命・地球	平均正答率は68.4%で、市の平均を下回った。 ○「1年間の動物のようす」の設問では、大カマキリの1年間の様子についての正答率が市の平均を上回った。 ○自然の中の水について「蒸発について理解しているか」の設問では、正答率が市の平均を大きく上回り、おおむね理解できていた。 ●「気温を正しく測る」設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。 ●「ふたのある容器では、蒸発した水は出ていかず、内側に水滴がつくこと」の設問では、正答率が市の平均を大きく下回った。	予想、実験・観察、結果、考察の過程を大切に、それらを日常の事象と結び付けて考え、理解の定着を一層図っていく。また、実験や観察の技能について指導する機会を適宜確保し、実験や観察の技能を高めていく必要がある。予想に反する結果が出た場合には、結果を十分検討し考察することで、新たな視点を見つけ、理解を深めるきっかけにしていく。 実験や観察における基礎的な技能の習得については、留意すべき点を随時確認したり、ポイントを分かりやすく示したりすることで、正確な技能の習得を目指していく。

宇都宮市立城山西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むよう」にしている」など、家庭学習に関する質問において、市の平均を大きく上回った。今後も家庭と連携しながら、自分で考えて家庭学習に取り組むことができるよう指導し、学力向上を目指していく。	
○「だれに対しても、思いやりの心をもって接している」の項目において、肯定的回答をした児童が100%で、市の平均を大きく上回った。今後も、道徳の時間や縦割り班活動、普段の生活の中から、思いやりの気持ちを育む場面を大切に指導していく。	
○「自分にはよいところがあると思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の項目で市の平均を上回った。今後も、学校生活の中で活躍する場を意図的につくり、自己肯定感を高められるように指導していく。	
○「先生は学習のことについてほめてくれる」「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問では、肯定的回答が市の平均を大きく上回った。今後も小規模校として、教師と児童のよりよい距離感を保ちながら、一人一人に合った指導の工夫をしていく。	
●「次の教科などの学習は好きですか」の項目において、社会と算数において市の平均を下回った。今後は、普段の授業の中で、少しでも社会や算数が好きになるきっかけが作れるような授業展開を、様々な視点から模索していく。	
●「次の教科などの学習は、しょう来的のために大切だと思いますか」の項目では、算数のみ市の平均を下回った。今後は算数の授業の中で、日常生活と関連させて考えることができるように工夫改善をしていくとともに、保護者とも連携を図り、普段の家庭生活の中で算数を用いる場面を積極的に取り入れていくよう、懇談会や学年だより等を使って促していく。	
●「しょう来的のゆめや目標をもっている」「家の人としょう来的のことについて話すことがある」の項目では、肯定的回答が市の平均を大きく下回った。道徳や学活の授業を通して、将来の夢や目標に向かって努力することの大切さを指導するとともに、懇談会や学年だよりも使いながら、家庭でも将来のことについて話す時間を設けてもらうよう促していく。	
●「クラスは発言しやすい雰囲気である」の項目は、市の平均を上回っているが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の項目で市の平均を下回った。今後は、自分の考えを相手に分かりやすく伝えられる力を身に付けさせるために、発表するときの話し方を例示したり、的確に発言している児童を称賛したりしながら児童の苦手意識を軽減させていく。	

宇都宮市立城山西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
聴く指導	相手理解を意識した「聴く」態度を醸成する。言語活動の指導に力を入れ、ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れることで、自分の考えをまとめ表現する機会をできる限り多く設定するようにして、考えながら聴くことを意識させる。	「授業を集中して受けている」に対する肯定的回答は、両学年とも100%である。また、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると回答している児童は市の平均を大きく上回った。さらに「聴く」態度の定着を図るために発言しやすい学級の雰囲気づくりや話し合い活動の充実を図り、「聴く」必要性のある場の設定を工夫していく。
分かる授業の実現	学びのゴール(目標)を明確に示し、見通しをもった学びができるよう、めあての提示をしていく。また、授業ごともしくは単元ごとの振り返りでは、どのような視点で振り返りを行うのかを明示し、振り返り活動の充実を図る。それにより、授業で児童が何を学び自身がどう変容したのかを実感できるようにする。	めあての提示に関する項目では、5年生では100%、4年生では85%が肯定的回答をしている。めあての提示は全校の取組みとして行っているが、それが認識できていない児童がわずかに見られた。本時に何を学ぶのかをつかみ、見通しをもって学習できるようにしていく。また、振り返り活動に関する項目では、肯定的回答が両学年とも市平均を大きく上回っている。
家庭学習の充実	地域学校園で「宿題プラス1」を合言葉とした取組を実施している。授業の中で問題解決力を高める指導(自分で類題やさらなる調べができる、間違いを自分で確かめて直せる等)をすることで、自らの主体的な学びができるようにしていく。	復習に関する項目の肯定的回答は、5年生では、市の平均を大きく上回った。4年生も市の平均と同程度であり、比較的取組みが充実していることがうかがえる。それに対して、家庭学習への取組状況や予習に関する項目においては、4年生の肯定的回答回答が市の平均を下回った。家庭学習の意義や取組み方について、折に触れて指導し、定着を図っていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
一定の条件を与えられ、それに沿って書かなければならない場合、条件が増えていくにしたがって正答率が低くなる傾向が見られた。 基礎的事項の設問において、市平均を下回るものが数問見られた。また、問題の意図を正確に把握し設問を理解できていない箇所も見受けられた。 今後も継続して基礎・基本の学力の定着に一層力を入れるとともに、言語感覚を養い、書く力を身に付けさせていく必要がある。	書く力を養うために、基礎・基本の学力を定着させ、言語感覚を養うための取組をしていく。	文字数制限や段落構成の条件、必須で書く単語や内容の設定を行い、与えられた条件に合致させながら書く経験を積ませていく。各学年の発達段階に応じて、徐々に条件の難易度を高めていき、段階的に力が付くようにしていく。様々な表現に触れ、語彙力を高めるため、低学年では読み聞かせの時間を確保したり、中高学年では辞書引き学習や日記を自主学習の一環として取り入れたりしていく。 さらに言語感覚を養っていくため、正しい言葉遣いや文章表現を身に付けられるよう全職員が学校の教育活動全般を通して働きかけていく。